

雪室・利雪地域産業イノベーションは総事業費約1億1千万円

総務常任委員会で地方創生推進交付金事業の事業費、スケジュールなど開示

市議会総務常任委員会が3日開催され、今年度から取り組む地方創生推進交付金事業の事業費、スケジュールなどが明らかにされました。

このうち「城下町高田の歴史・文化を活かした『街の再生』」事業は街なか居住の促進、街の経済基盤の強化など4つの柱で取り組み、今後5年間で約7億2000万円の総事業費となるということです。総事業費のうち、約3億6000万円（補助率2分の1）について地方創生推進交付金を活用する計画といます。

「雪室・利雪による地域産業イノベーション」事業は雪室推進プロジェクトを中心に関係団体個人が連携して、雪室の整備・活用、市場開拓・拡大などをすすめ、地域産業のイノベーション（革新）を図ろうというものです。総事業費は約1億1000万円。今年度から3か年で事業をすすめる予定です。

市の報告では、すでに地域再生計画は国に提出済みで今月中には認定される見込みとのことでしたが、私は、「提出前に概要等を示し、議会の意見を聞くのがスジだ。そういう手順を踏まえないでやるなら議会はいらない」と注文をつけました。



具体的な議論をするにはそれなりの基礎データ・資料も必要です。「雪室・利雪による地域産業イノベーション」についての質疑では、「雪冷熱エネルギーを活用する企業、団体はどれくらいにのぼるか」「空き倉庫、空き家を活用してのり

修）はどれくらい行うのか」などと質問しました。ところが答弁では「改修は考えていない」などという状況で、とても地域産業を革新していく位置付けで取り組んでいるとは思えないものでした。

トキ鉄利用者の負担軽減策 回数券などの実績は公開せず

交通政策調査対策特別委員会も3日、開催されました。ここでは、上越妙高駅周辺の開発の進捗状況や北陸新幹線の利便性の向上と並行在来線等の現状と課題について報告があり、質疑が行われました。

注目の北陸新幹線の利用状況ですが、乗降者数は通常期で平均3900人、イベント時で5400人とのことでした。通常期は当初の推計値を上回っているとのことでした。

私が6月議会一般質問でとり上げた新幹線とえちごトキめき鉄道との接続問題で、上越市内から東京・金沢方面へ移動する場合、東京・金沢方面から上越市内へ移動する場合の状況も示されました。私が一番ひどいと具体的に示した金沢方面から上越市内へ移動する場合、接続時間が31分以上のものが5本（30分以上でまとめると6本）にものぼることが明らかにされました。このほか平行在来線の開業後の運賃増加率も他社との比較の中で出されました。

質疑の中では、日本共産党議員団の橋本正幸議員が、「新幹線駅2階にトイレを設置してほしいとの要望があるが、どう対応しているのか」「主要駅の乗降者数を前年との比較で示してほしい」「トキ鉄の利用者負担軽減策として回数券配布などが行われたが、申請件数、配布実績はどうか」などと質問しました。トイレに



【キリンソウ】ベンケイソウ科の多年草。漢字で「麒麟草」と書きます。葉は肉厚で個性的です。たくさんの黄色な花をつけます。先日、米山湖へ行ってきた時に、道の土手に咲いているところを見つけました。

については、「物理的にいまのスペースでは配置できない。とりあえず、どこにトイレがあるかをわかるように改善している」と答えるにとどまりました。トキ鉄の乗降者数ですが高田駅で2162人（2013年は2200人）、春日山駅が696人（同700人）、直江津駅で1778人（同2700人）だそうです。驚いたのは回数券の実績については「営業上の問題があるため公開しない」としたことでした。これでは負担軽減策は効果があったのかどうかさっぱりわかりません。うまくいかなかったのでしょうかという対応をしたのではと勘繰りたくなります。

市議会で先日の豪雨災害現地視察を行うことが決まりました。9日午後です。災害対策特別委員会・文教経済常任委員会メンバーなどが主だったところへ行きます。続報します。



参院選や都知事選が終わって、今度は新潟県知事選、衆院選に向かって動き始めました。高田のYさんから久しぶりに絵手紙をいただきました。ペンと絵の具で描かれた絵手紙からはYさんの、憲法を守りたい、安保法制をなくしたいという思いが伝わってきます。

はしづめ法一の活動レポート

No.1768 2016.8.7

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四一六回

オニヤンマ

またもや食堂が消えました。中山間地でのことです。食堂がひとつなくなって、地域の過疎化のスピードがまた上がらなければいけないかと心配しています。

今回は大島区菖蒲の食堂・ばんや亭です。この食堂がそう遅くない時期になくなるということは店主の幸雄さんから聞いていました。そのとき、思ったのです。昔に比べれば、お客は減ってきているし、どうしようもないことだろうな。でも、まさかこんなにも早くやめることになるうとは思ってもみませんでした。

食堂・ばんや亭が七月末にやめるということを知ったのは、やめるという日より三日ほど前のことでした。菖蒲東のKさん宅でお茶をご馳走になっているときに、Kさんが一枚のビラを持ってきて、「こんだ、出前お願いしようにもできなくなる」と言ったのです。ビラには、「突然で、申し訳ありません。七月三日を持って、食堂関係を休業させていただきます。時代の流れには勝てませんでした」と書かれていました。

私がこの食堂のお世話になるようになったのは上越市が周辺町村と合併して以降です。一〇年ほど前からになります。山間部の奥まったところに食堂があることはいぶん助かっていました。ビラを読んで、「これは最後の日は出かけていかなければならない」と思いました。

食堂の最後の日は日曜日。ちょうど大島夏まつりの日でもありました。ふれあい会館脇の広場を訪れた後、ばんや亭に向かいました。牛ヶ鼻を過ぎると、じきに菱ヶ岳が見えてきます。この日は山頂付近が雲に覆われていました。

暖簾（のれん）をくぐって食堂に入ると、菖蒲東のIさん夫婦と生まれてからまだ一年ほどの小さな子どもがひとり客席にいました。幸雄さん夫婦は厨房の中です。「きょうの昼食で最後かね」と声をかけると、「そう」という言葉が返ってきました。この短い言葉にはさみしさが漂っていました。

Iさん夫婦が冷やし中華を注文されたので、私も同じものを注文しました。まだ掘り起こしたばかりだというジャガイモの煮っころがしをおまけにいただきました。注文したものの以外のもが出てきたのは食堂の最後の日だったからでしょうか。どちらも食べたからお腹がいっぱいになりました。

冷やし中華を先に食べたIさん夫婦が帰った後、お客は私ただ一人となりました。幸雄さん夫婦とも言葉を交わすことなく、しばらくじっとしていたところ、窓の外では大きなトンボが食堂のまわりを行ったり来たりしていました。そして、なんと暖簾の下から食堂の中へ入ってきたのです。トンボはオニヤンマでした。

オニヤンマが壁にぶつかりっこしながら部屋の中をしばらく飛び回って、再び暖簾をくぐって外に出た頃、幸雄さんが厨房から出てきて、話を始めました。

幸雄さんは「おれはここで食堂二〇年だでも、その前があるんさ。菖蒲高原のベルハウスで三〇年近くやっていたんですわ。あそこでは地元を中心に大勢来てくんかった」と言いました。この発言を契機に菖蒲高原での牧場のこと、高原にある薄い板のような石のことなどの思い出を語り合いました。

オニヤンマは私が少年だった頃から知っている大好きな昆虫のひとつです。このトンボが登場すると何かいいことが起きる、私はいつもそんな予感がするのです。この日は大島夏祭り浦川原区山本の「こじろ」（屋号）と親戚関係にあるという若い女性と初めて出会いました。オニヤンマを見た時にこの女性の元気な声を思い浮かべました。

長峰城の魅力再発見

わくわくどきどきの見学会

400年前に2年間続いた長峰城（吉川区長峰地内）と城主、牧野忠成の歴史をひもとくイベント、長峰城見学会が31日、行われました。解説は郷土史家の植木宏さん。見学会には

地元の人や市内の歴史愛好家など100人近い人たちが集まりました。

植木さんは、「上越地方には城が250~300くらい残っているがその中心となったのは春日山城だ。春日山城を横綱とすれば、長峰城は大関くらいの位置にある」「当時の高田城主となった酒井家次を助けるために

長峰城は作られたが、この城は造りかけの城というイメージだ。しかし酒井は10万石で、牧野は5万石、中藩と言っている」

「長峰城は空堀や土塁などの遺構がしっかり残っていて貴重だ」「文化財、史跡は地域の人がつくる。かまわんでおけばヤブとなる。今回の（保存会の）取組は地域の人たちによる再発見だ。どう守り、次の人たちにどう伝えていくかが課題」などと話をされました。

私はこれまで3回ほど長峰城を歩いていますが、今回、保存会の手によって整備され、どういう城だったかがよくわかるようになっていたのにはびっくりしました。駐車場から空堀、城の斜面を見ることができるようになりました。雑木林の一部が伐採されてい

ました。そのことによって城の高さを確認できました。また南の土塁の断面が見られるようになっていて、地層がはっきり見えました。どんなふうに土塁が造られたかを目で見られました。

植木さんとは市の文化財の調査以来、久しぶりの再会でした。やはり説明はうまい。植木さんが、物見やぐらの説明では「南西の物見やぐらと北西の物見やぐらが堂々と見えたはず。その姿を見ただけでも敵は戦意を失ったんじゃないか」と語り、船着き場付近の説明では、「ここは長峰城で一番の場所だ。風が流れている。ここを整備して長峰池を見られるようにするといいですよ」と、魅力を語りました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月27日(水)	8月3日(水)
上越南消防署	0.060	0.047
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.063	0.050
東頸消防署	0.050	0.053
高士分遣所	0.053	0.043
名立分遣所	0.057	0.053